

# 極東ロシア・ウラジオストクへの 医療の国際展開

---



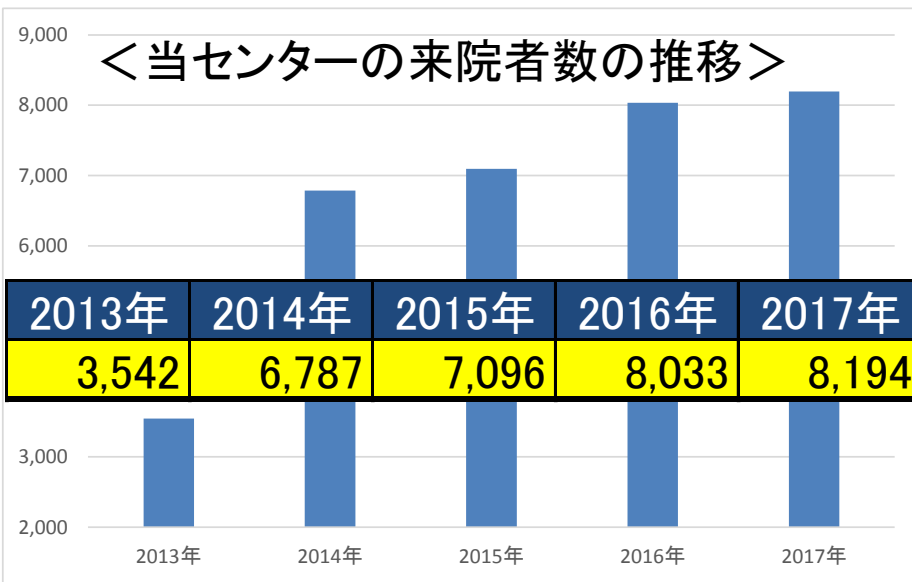
平成30年7月25日

社会医療法人北斗

理事長 鎌田 一

# 北斗画像診断センター：適切な診断が海外展開の第一歩

- ✓ 2013年5月オープン、同年6月初旬より本稼働)
- ✓ 日本製のMRI(1.5T)、CT(64列)、Echo、ABI等設置
- ✓ 現地スタッフを採用(現在、25名)
- ✓ 現地医療の向上にはハードのみならず、**医療スタッフの診断力向上が重要**
- ✓ ロシア極東にて**第二次予防医療**を提供



発症前診断・治療(=第二次予防医療)が地域医療を革新する

# 北斗リハビリテーションセンター：日揮(株)との合併事業

- ✓ 2018年5月オープン
- ✓ 2016年5月の日露首脳会談において、安倍総理からプーチン大統領に対して提示された「8項目の協力プラン」に基づき日揮(株)との合併事業を具体化
- ✓ 疾病特性、可塑性を根拠とする、個別化されたリハビリの推進
- ✓ リハビリ医師4名(10名まで対応可能な設計)で事業開始、既に受入上限まで患者が来院



BMIなどをベースに先進的リハビリテーションの早期展開を構想

# 今後の展開：予防医療からPrecision Medicineへ

- ✓ がん遺伝子解析、画像診断機器などにより大量の情報を生み出す医療。このビッグデータがSociety5.0をベースに医療の場を革新して行く
- ✓ 当院では2013年よりNGS(次世代型遺伝子解析器)を導入しくがん・ゲノム医療の伸展>を実装している
- ✓ ウラジオストクにおいては、精密医療/個別化医療の更なる展開を図るためPET導入を検討している



<当院の病理・遺伝子診断科>



<当院の最新デジタルPET>

精密医療、個別化医療の進展のため<核医学>が必須